

EMT981 再生系の再構成(3)

1. はじめに

前報(2)までは、EMT981 をトランスポートとして使用してきましたが、長めの XLR アナログケーブルを入手して TruPhase に直接入力することとし、プレイヤーとして使用してみます。

2. EMT981 の設置と試聴方法

EMT981 はトランスポートとして使用してきたのは、設置位置の関係から DAC などの中継せざるを得なかったからです。今回は、長尺の XLR アナログケーブルにより、EMT981 のアナログ出力を TruPhase に直接入力します。このことにより、EMT981 から 300B アンプまですべてバランス伝送が可能となります。今回入手した XLR アナログケーブルは下記のものです。

SAEC XR-3000 1.5m 2番 HOT

3. EMT981 の試聴結果

下記の再生経路をすべてバランス接続して聴いていきました。

EMT981(GMP-777 よりクロック入力)→TruPhase→しなの音蔵 300B



EMT981 出力側



TruPhase 入力側

単純に接続して聴き始めましたが、下記の問題が起きました。

EMT981 の出力レベルが高く、**TruPhase** のヴォリュームで絞り切れません。

EMT981 の出力レベルには、出力レベルコントロールレバーがあるのですが、出荷当初の最大レベルのままになっています。コントロールレバーで調整しようとしたが、出荷以来動かした様子がなく、固くて調整できません。無理して壊すといけないので、**300B** アンプの入力レベルを調整して対処しました。

試聴には、下記の音源を使用しました。

ARCHIV POCA-2009/10

J.S.Bach ミサ曲ロ短調

カール・リヒター指揮ミュンヘンバツハ管弦楽団

SONY SICC1172

ワーグナー 管弦楽集

マリス・ヤンソンス指揮バイエルン放送交響楽団

S&R AVCL-25005

J.S.Bach あなたがそばにいたら他

森麻季 (ソプラノ)

山岸茂人 (ピアノ)

JVC PR27952XRCD

ハリー・ベラフォンテ カーネギーホール

前報(2)では、下記の再生経路で、**DAC-1** までがデジタルのバランス接続で **DAC-1** から **TruPhase** にはアンバランス接続でした。

EMT981(*)→CRV-555()→DAC-1→TruPhase**

* : GPS-777 より CCD-6 経由でクロック入力

** : **EMT981** のクロックアウトよりクロック入力

今回、**EMT98** 以降 **300B** アンプまですべてバランス接続にしたことにより、その効果は大きく、これまでの印象より、ずっと躍動感が増し、いわゆるデジタル臭さも感じられません。特にワーグナーは、来日したマリス・ヤンソンス指揮バイエルン放送交響楽団の演奏を、森麻季はコロナ前の演奏を聴いており、その時の印象が蘇ってきます。また、ミサ曲ロ短調とハリー・ベラフォンテでは、**TruPhase** における位相反転も有効で、定位がぴったり合う印象です。

4. まとめ

EMT981 から **300B** アンプまで再生経路をすべてバランス接続することにより **EMT981** のポテンシャルを最大限引き出せた印象です。

以上

